

百尺竿頭

ひゃく しゃく がん とう



札幌市青少年山の家だより

第30号

平成25年(2013年)1月1日発行

「歩くスキーの魅力」

私の幼少の頃のお話を少し。夏は、朝早くに起きて友達とクワガタを捕りに行ったり、ザリガニやカエルを捕りに行ったりするのが楽しみの一つでした。セミの幼虫(モズ〜札幌近辺での呼び名)を捕ってきて、部屋の網戸に放し羽化させたこともありました。秋になると、クリ拾いや落葉きのこを取ってきて、母親に調理してもらって食べたのを覚えています。冬になると、かまくらを作ったり、公園でそりやチューブで遊んだりしました。木登りをして高いところから飛んだことも楽しかったです。そして、何ととっても私の1番の思い出は「歩くスキー」でした。小学校の体育の時間に歩くスキーを習ったのです。その魅力にはまり、歩くスキーの大会に出たこともありました。



子どもたちは、社会や自然・環境の中での体験活動を通して、自分と向き合い、他者に共感することや社会の一員であることを実感します。また、自然の偉大さや美しさの中で行う体験活動は、子どもたちに豊かな経験を与えるとともに、学校内での学習を充実・発展させる役割をもちます。私も自然の中で得たことが原動力となり、楽しく元気に学校や日常生活を送りました。

さて、歩くスキーのスキー板は細く長く、踵が固定されていないので、平地はもちろん雪の中でも容易に活動することができます。また、板の裏の真ん中にうろこ状の滑り止めがあるのも特徴の一つです。歩くだけではなく滑ることや登ることも楽しめ、利用者自身が操作できる自由度の高いスキーです。夏は、ダニやウルシなどの危険があり森の中に入ることに憶病になりますが、冬はそれを雪が覆い尽くすので、歩くスキーを使って冬の自然を肌で感じることができます。鳥のさえずり

を聞いたり動物の足跡を見たり、木の冬芽を見るなど、日常では味わえない体験をすることができます。是非札幌市青少年山の家で、冬らしさと雪の楽しさを満喫してみませんか。たくさんの方々のご利用を心からお待ちしております。



外に出るときの服装例

【用具選びのポイント】

- 歩くスキーの長さ〜「身長+20〜30cm」。スキーをたてた時に、スキーの先を握ることができるくらいの長さ。
- スキー靴〜厚手の靴下をはくので、サイズは「普通の靴のサイズ+0.5〜1cm」くらい。
- ストック〜自分の脇の下から肩の高さくらいの長さ。

実施事業のご報告

■第2回陶芸教室「気軽に陶芸！アロマポットづくり」

12月2日（日）、9日（日）

お好みの香りを楽しむためのアロマポットを1人につき3種類作りました。電動ろくろ体験では、ボランティアスタッフのサポートもあり、満足のいく作品を作ることができたようです。



■しめ縄飾りづくり教室 12月22日（土）、23日（日）

お正月に向け、1組につき5種類のしめ飾りを作りました。家族で協力して作ったしめ飾りは売り物にも引けを取らない出来上がりでした。参加された皆さんから「いいお正月を迎えられる」との感想をいただきました。



利用者アンケートより

- 事前の計画調整、そして当日の対応等で大変お世話になりました。
大きな事件、事故もなく終わることができました。ありがとうございました。
- いつも急な変更に対応していただき、お気遣いいただき感謝しています。

自然の豆知識

【歩くスキーやスノーシュー、かんじきをはいて冬芽を観察してみませんか。】

落葉樹は晩秋に葉を落とし、休眠状態で冬を過ごします。春にふたたび芽吹き、活動を開始するために準備されたのが冬芽です。

<冬芽の分類>

○鱗芽（りんが）～冬芽を保護するうろこ状の芽鱗（がりん）で被われている冬芽。

ヤマモミジ



ホオノキ

ミズナラ



キタコブシ



*長そで、トレーナー、ジャンパー・・・重ね着をして寒さを防いでいるという感じでしょうか。

○裸芽（らが）～冬芽を保護する芽鱗（がりん）で被われていない冬芽。



ヤマウルシ



オニグルミ

*元気に裸で冬を過ごすという感じでしょうか。

○隠芽（いんが）～葉の痕やその付近の枝の中であって、外からは見えない冬芽。



ニセアカシア

*家の中でじっと過ごすという感じでしょうか。

木によって冬の寒さや乾燥から身を守る工夫が違うのです。自然界で生き延びていくための知恵ですね。

発行者：札幌市青少年山の家
指定管理者（財）札幌市青少年女性活動協会

〒005-0862 札幌市南区滝野 247 番地（国営滝野すずらん丘陵公園内）
電話（011）591-0303 FAX（011）591-0394
ホームページ <http://www.sapporo-yamanoie.jp>